

日本政治学会 会報

The JPSSA News

No.59

JUN.2010

日本政治学会2010年度研究会について

2010年度企画委員長 杉田 敦

日本政治学会は現在、転機を迎えています。政治学研究者の横断的な組織として主導的な役割を果たしてきた本学会ですが、近年では各分野での学会設立が相次ぎ、個別研究の充実が進む一方で、統合的な機能についてはいささか弱まってきた感があります。

大学が冬の時代を迎える中で、法学など隣接分野との競争も激化し、研究・教育ポストや研究費の獲得などをめぐって、これまで以上に努力が求められています。

他方で、国際情勢の混迷や、わが国における昨秋の本格的な政権交代は、改めて政治学の時代の到来を予感させてもいます。学問的な蓄積を背景とする鋭い分析が必要となっています。

本年の研究会はこうした認識の下に、政治学の広がりや深まりとの再確認を目的として企画されました。10月9日（土）から11日（月）まで、中京大学を会場に開催されます。

本年も会場校のご協力により、かなり多くのセッションを設けることができました。上記のような競争状況に対応するためにも、会員の貴重な研究成果が可能な限り公表の機会を得るべきだと考えるからです。ただし、昨今の大学での会場状況等を勘案すると、こうした3日体制については、近い将来において実現不能となる可能性があります。残念ながら予告しておかなければなりま

せん。

共通論題としては、「21世紀の地域構想：日本とアジア」というテーマで、歴史的な経緯を振り返りながら、東アジアの現在と将来について掘り下げる予定です。第一線の研究者や外交官の登壇により充実したものとなりそうです。

企画委員会による企画は、政治理論、政治思想史、政治史、日本政治研究、行政学、国際政治学、地域研究などをバランスよく配置する予定です。研究交流委員からも4つの企画が出ます。

公募企画では、公募した4つの案の中から「選挙（制度）研究」、「戦争・紛争の政治学」、「環境の政治学」の3つが成立しました。

この他に自由論題や「政治学のフロンティア」にも多くのご応募をいただき、総計で40ほどの企画を進めることとなっています。

さらに、中京大学との共催で、最終日には「福祉社会をどうつくるか（仮）」をテーマに一般の人々も参加できる公開講演会を催します。

報告者各位には期日までにペーパーをウェブ上に提出していただくよう改めてお願いします。会員各位には、ぜひ会場にお運びいただき、活発な議論に参加していただきたいと思っております。本年度の研究会が、日本政治学会のさらなる発展の一里塚となることを切望しています。

2010年度研究大会プログラム

2010年度日本政治学会研究大会を下記の要領で開催いたします。できるだけ多くの会員の方々のご出席を賜りますよう、お願い申し上げます。

日時：2010年10月9日（土）～11日（月）

場所：中京大学名古屋キャンパス（名古屋市昭和区八事本町101-2）

交通：名古屋市営地下鉄鶴舞線・名城線「八事駅」下車 5番出口より徒歩0分

【第1日目】10月9日（土）

13：00～15：00（共通論題）

21世紀の地域構想：日本とアジア

司会者：苅部 直（東京大学）

報告者：松浦正孝（北海道大学）

「戦前・戦中日本における汎アジア主義者のアジア構想（仮）」

宮城大蔵（上智大学）

「戦後日本とアジア」

谷野作太郎（元・中国・インド大使）

「東アジアと日本—共存・共鳴・共創の世界をみざした」

討論者：白石 隆（政策研究院）

藤原帰一（東京大学）

15：30～17：30（分科会A1～A9）

A1 社会的統合のあり方をめぐる規範理論的対話——ナショナルな絆か、あるいは非ナショナルなシティズンシップの絆か——

司会者：竹島博之（福岡教育大学）

報告者：中野剛志（経済産業省）

「近代国家とナショナルなもの」

遠藤知子（慶應義塾大学）

「民主的参加の条件とシティズンシップ」

施 光恒（九州大学）

「リベラル・ナショナリズムの世界秩序構想——D・ミラーの議論の批判的検討を手がかりとして——」

討論者：伊藤恭彦（名古屋市立大学）

谷口功一（首都大学東京）

A2 政治哲学の現在——政治哲学と国際政治哲学の対話

司会者：小田川大典（岡山大学）

報告者：乙部延剛（日本学術振興会）

「デモクラシー論の現在」

清水耕介（京都大学）

「[人間の安全保障]論の現在」(仮)

討論者：井上 彰（群馬大学）

五野井郁夫（立教大学）

A3 近代日本の軍事と政治

司会者：大前信也（同志社女子大学）

報告者：大島明子（晃華学園中学高等学校）

「建軍期の陸軍と外征論」

畑野 勇（海洋政策研究財団）

「戦前期多国籍軍と日本海軍—多国間協調における日本の軍事的役割に関する歴史的分析—」

佐藤 晋（二松学舎大学）

「引揚と情報—日米両政府の対中政策への影響分析—」

討論者：北岡伸一（東京大学）

A4 選挙の制度的問題と帰結

司会者：鈴木基史（京都大学）

報告者：和田淳一郎（横浜市立大学）

“Evaluating the Unfairness of Representation with the Nash Social Welfare Function”

梅田道生（ミシガン大学）

“Myth of the Contamination Effect? Different Questions, Different Conclusions for Small Party’s Strategy under Mixed-Member Electoral System”

鹿野 晋（コンスタンツ大学）

“Dynamics of Expectation

学 会 ニ ュ ー ス

Formation and Strategic
Voting under the German
Mixed Electoral System”

討論者：石生義人（国際基督教大学）
谷口尚子（東京工業大学）

A5 「『内閣主導』のアナトミー —近衛新体制から鳩山政権まで」

司会者：坂本一登（國學院大學）
報告者：矢野信幸（中央大学）

「昭和戦中期における内閣機能強化論の帰趨」

野中尚人（学習院大学）

「内閣主導と政治主導—日本とヨーロッパの比較を交えながら—」

村井哲也（明治大学）

「政権交代と内閣制の相克 —吉田茂から鳩山一郎へ—」

討論者：岡田 彰（拓殖大学）
牧原 出（東北大学）

A6 G20の政治（日本学術会議比較政治学分会共催）

司会者：五十嵐武士（桜美林大学）
報告者：高原明生（東京大学）

「中国」

二宮正人（サンパウロ大学）

「ブラジル：軍政終了後四半世紀を経たブラジル—大統領選挙の行方」

眞柄秀子（早稲田大学）

「イタリア」

討論者：広瀬崇子（専修大学）
五十嵐武士

A7 戦後日本の安全保障——安保改定50年を契機に——

司会者：信夫隆司（日本大学）
報告者：吉次公介（沖縄国際大学）

「日米同盟の岐路」

佐藤史郎（京都大学）

「核と日米安保—脅迫型から安心

型へ」

討論者：南山 淳（筑波大学）
佐渡友哲（日本大学）

A8 政治学研究とヨーロッパ政治史研究

司会者：野田昌吾（大阪市立大学）

報告者：村上信一郎（神戸市立外国語大学）

「西洋政治史のための弁明：そのアポリアと存在理由」

網谷龍介（明治学院大学）

「ヨーロッパ比較政治研究における歴史の位置価—変数指向と方法指向の先に（仮）」

今野 元（愛知県立大学）

「東京大学法学部のドイツ政治史研究—批判的回顧と建設的提言」

討論者：馬場康雄（東京大学）
唐渡晃弘（京都大学）

A9 平成大合併の検証

司会者：秋月謙吾（京都大学）

報告者：河村和徳（東北大学）

「地方政治の再編機会としてみる『平成の大合併』」

小西 敦

（全国市町村国際文化研修所・京都大学）

「『平成の大合併』に関する国の施策の変遷」

討論者：今井 照（福島大学）

谷畑英吾

（滋賀県湖南市長・前甲西町長）

18：00～20：00 〈懇親会〉

【第2日目】 10月10日（日）

9：30～11：30 〈分科会B1～B9〉

B1 韓国政治学会との国際交流セッション（詳細未定）

B2 自由論題（政治思想関係）

司会者：飯島昇蔵（早稲田大学）

報告者：古城 毅（東京大学大学院）

「バンジャンマン・コンスタンにおける

る、自由と宗教の関係」
城下賢一（立命館大学）
「知識人とその政治行動——民主
社会主義者・関嘉彦」
大井赤亥（東京大学大学院）
「『社会民主主義』の政治思想的正
当化—ハロルド・ラスキを通し
て」

B3 自由論題（比較政治関係）

司会者：西崎文字（成蹊大学）
報告者：西川 賢（日本国際問題研究所）
「1952年の大統領選挙におけるア
イゼンハワーの戦略形成とその
分析的叙述」
富田晃正（東京大学大学院）
「経済グローバル化によるアメリ
カ労働組AFL-CIOへの影響：多
様化・複雑化する通商選好」
鈴木尊紘（国立国会図書館）
「フランスにおける差別のポリティ
クス —差別の諸相とその是正
のための政治—」
上久保誠人（早稲田大学）
「国際金融政策過程の日中比較制
度分析」

B4 自由論題（選挙研究関係）

司会者：川人貞史（東京大学）
報告者：松尾晃孝（ライス大学）・
松本俊太（名城大学）
「地元利益か党派性か？衆議院常
任委員会における言説の変遷」
福元健太郎（学習院大学）
“A Bayesian View of Party
Systems”
山崎 新（早稲田大学大学院）
「日本の選挙における政治知識」

B5 自由論題（日本政治関係）

司会者：中北浩爾（立教大学）
報告者：辻 由希（京都大学大学院）
「日本型福祉レジームの変革過程

における「子ども」関連政策—
ジェンダー平等と新自由主義の
言説政治分析—」
小森雄太（明治大学大学院）
「大正期日本における政軍関係の
考察—新制度論の視点から—」
山村岳央（東京大学大学院）
「55年体制と再分配政策 —石油
危機以後の時期を中心に—」

B6 政党理論の再検討（研究交流委員会・現代 政治過程研究フォーラム）

司会者：谷口将紀（東京大学）
報告者：肥前洋一（北海道大学）
「デュバルジェの法則の実験室実
験」
尾野嘉邦（国際大学）
「閣僚ポストの配分：政党内のパー
ゲニング」
谷口将紀（東京大学）
「政党支持概念をめぐる」
討論者：平野 浩（学習院大学）
品田 裕（神戸大学）

B7 多極共存型民主主義の理論と制度（研究交 流委員会・現代政治学研究会）

司会者：坪内 淳（山梨大学）
報告者：岩崎正洋（日本大学）
「多極共存型民主主義とガバナ
ンス」
三竹直哉（駒澤大学）
「多極共存型権力分有モデルと政
党システム」
三輪博樹（筑波大学）
「アジアにおける多極共存型民主
主義」
討論者：小松志朗（早稲田大学）
石上泰州（平成国際大学）

B8 東アジア、欧州、アメリカの地域統合比較 研究：現状と課題（研究交流委員会・地域統合 比較研究分科会）

司会者：羽場久美子（青山学院大学）

報告者：猪口 孝(新潟県立大学)

「グローバル化と世界経済危機以降の国際政治の中の地域統合：問題提起」

王 敏 (法政大学)

「東アジア、中国の地域統合——「生活共同体」としての東アジア」

小川有美 (立教大学)

「21世紀の欧州連合——「内向き」と「外向き」の挑戦」

松本八重子 (津田塾大学)

「アメリカ大陸における地域統合の現状と課題」

討論者：五十嵐武士(桜美林大学)

「米国と東アジア共同体」

鈴木一人 (北海道大学)

「リスボン条約、欧州統合の内実」

B9 多文化主義の新展開

司会者：津田由美子 (獨協大学)

報告者：飯田文雄 (神戸大学)

「短期滞在者の権利理論は可能か？」

早川 誠 (立正大学)

「多文化主義と熟議」

浪岡新太郎 (明治学院大学)

「フランスにおけるエスニックマイノリティと平等」

討論者：辻 康夫 (北海道大学)

12:00～13:00 〈総会〉

13:30～15:30 〈分科会C1～C10〉

C1 政権交代後の政府体系：変容と連続 (仮)

司会者：原田久 (立教大学)

報告者：中野雅至 (兵庫県立大学)

「政官関係」

金井利之 (東京大学)

「政府間関係」

丹羽 功 (近畿大学)

「官民関係」

討論者：武智秀之 (中央大学)

C2 野党改革の比較政治

司会者：竹中治堅 (政策研究院)

報告者：石神圭子 (北海道大学大学院)

「アメリカ民主党について (仮)」

今井貴子 (成蹊大学)

「イギリスにおける野党の組織改革と政策形成過程 (仮)」

野田昌吾 (大阪市立大学)

「ドイツ社会民主党／キリスト教民主同盟について (仮)」

討論者：高橋 進 (龍谷大学)

竹中治堅

C3 コミュニタリアニズムの現在——リベラル・コミュニタリアン論争再考

司会者：小林正弥 (千葉大学)

報告者：菊池理夫 (南山大学)

「マイケル・サンデルの共通善の政治学」

中野剛充 (千葉大学)

「チャールズ・テイラーにおける宗教と政治の間」

有賀 誠 (防衛大学校)

「コミュニタリアンの正戦論？——マイケル・ウォルツァー再考」

討論者：施 光恒 (九州大学)

山田陽子 (東京大学大学院)

C4 選挙区政治の変容

司会者：山田真裕 (関西学院大学)

報告者：砂原庸介 (大阪市立大学)

「地方への道——国会議員と地方首長の選挙政治」

濱本真輔 (日本学術振興会)

“Changing Determinants of Home Style”

藤村直史 (神戸大学)

「選挙制度と立法組織：民主党鳩山由紀夫政権下での役職配分」

討論者：河村和徳 (東北大学)

今井亮佑 (首都大学東京)

学 会 ニ ュ ー ス

C5 比較福祉国家論における競合するアプローチ：権力資源動員論、歴史的制度論、アイディア的制度論を用いた実証研究の現在

司会者：堀江孝司（首都大学東京）

報告者：近藤正基（立命館大学）

「ドイツ福祉国家と権力資源—疑似普遍主義モデルの成立とその要因—」

稗田健志（早稲田大学）

「普遍主義的ケア政策の成立要因：高齢者介護政策の日米瑞比較」

加藤雅俊（立命館大学）

「福祉国家再編における労働市場政策の分岐と収斂—80年代以降のオーストラリアとニュージーランドを事例として—」

討論者：宮本太郎（北海道大学）

網谷龍介（明治学院大学）

C6 近代日本の政権交代と官僚制 内務省の事例から

司会者：中静未知（日本大学）

報告者：稲吉 晃（東京大学）

「大正期内務省と港湾修築政策の展開」

黒澤 良（國學院大學）

「田中義一内閣の内務省人事（仮）」

宮地忠彦（専修大学）

「大正デモクラシー期の政権交代と治安維持政策（仮）」

討論者：清水唯一朗（慶應義塾大学）

中澤俊輔（日本学術振興会）

C7 翻訳と西洋政治思想史研究

司会者：犬塚 元（東北大学）

報告者：田中秀夫（京都大学）

「『マキアヴェリアン・モーメント』の翻訳から」

山田園子（広島大学）

「『ロック政治論集』翻訳から思うロック研究の今後」

吉村伸夫（鳥取大学）

「『ロック政治論集』ならびに

チャールズ・テイラーの翻訳から」

松本礼二（早稲田大学）

「『アメリカのデモクラシー』の翻訳から」

討論者：安武真隆（関西大学）

C8 「普遍的であること」の政治的意味 —— 普遍主義のたそがれにおいて

司会者：杉田 敦（法政大学）

報告者：鵜飼健史（日本学術振興会）

「主権の存在論とその変容 —— 普遍性か特殊性か」

白井 聡

（多摩美術大学・高崎経済大学・早稲田大学）

「帝国と普遍性」

清水亮太郎（早稲田大学）

「空間と暴力の普遍性：植民地の知識人をめぐって」

討論者：杉田 敦

細井 保（法政大学）

C9 リベラリズムの限界——市民的文化の統合的機能

司会者：千葉 眞（国際基督教大学）

報告者：向山恭一（新潟大学）

「帝國的リベラリズムの文化政治」

石川涼子（早稲田大学）

「リベラルな多文化主義とリベラルでない文化」

越智敏夫（新潟国際情報大学）

「リベラル・ナショナリストと文化左翼」

討論者：山崎 望（駒澤大学）

千葉 眞

C10 政治学のフロンティア（13：30～18：00）

横溝未歩（神戸大学大学院）

「盧泰愚政権期の韓国における「ドイツ統一」—韓国月刊誌を中心に—」

田中雅子（東京大学大学院）

「負担増政策、政権構造、選挙」

学 会 ニ ュ ー ス

塩沢健一（日本学術振興会）
「2010年名護市長選挙についての
分析」

杉村豪一
（神戸大学大学院国際協力研究科）
「現代欧州政党政治における争点
と対立構造」

川橋郁子（早稲田大学大学院）
「地域開発における主体間調整の
制度化過程：スコットランド、
ウェールズの比較事例分析」

下村太一（北海道大学大学院）
「佐藤内閣期における田中角栄の
政治指導—「列島改造」に至る
政策構想の形成（仮題）」

平山 実（防衛研究所）
「戦後防衛政策に関するオーラル・
ヒストリーの編さんの現状と課
題—防衛研究所戦史部を事例と
して—」

松本明日香（筑波大学大学院）
「国家指導者のtwitterレトリック
—バラク・オバマと鳩山由紀夫
の対照比較—」

16：00～18：00 〈分科会D1～D8〉

D1 近世後期日本における政治思想の再検討

司会者：大久保健晴（明治大学）
報告者：眞壁 仁（北海道大学）
「徳川政治思想における明清交替」
前田 勉（愛知教育大学）
「江戸後期の読書と政治（仮）」
討論者：中田喜万（学習院大学）
伊東貴之
（国際日本文化研究センター）

D2 自民党政治と民主党政治

司会者：高安健将（成蹊大学）
報告者：建林正彦（同志社大学）・
藤村直史（神戸大学）
「政策形成と議員行動の変容：麻生
政権下の自民党」
井上拓也（茨城大学）

「政権交代と特殊利益・公共利益」
大川千寿（東京大学）
「政治家の政策意識と2009年政権
交代」

討論者：空井 護（北海道大学）
森 裕城（同志社大学）

D3 リスクに対する政策過程の課題

司会者：岩井奉信（日本大学）
報告者：石突美香（元明治大学）
「新型インフルエンザにおける日
本の行政対応とWHOの関係」
宮杉浩泰（早稲田大学）・
宮脇 健（日本大学）：
「新型インフルエンザにおける日
本の行政対応」
笹岡伸矢（明治大学）
「感染症と行政対応：理論的検討」
討論者：福田 充（日本大学）

D4 情報技術による投票支援策の現状と課題

司会者：三船 毅（愛知学泉大学）
報告者：木村泰知（小樽商科大）
「地方議員と住民間の協働支援シ
ステムの開発とその課題」
堤 英敬（香川大学）・
上神貴佳（高知大学）
「ポータルマッチ・システムの現状と
その課題」
高 選圭
（韓国・中央選挙管理委員会選挙研修院）
「電子投票システムの現状とその
課題」
討論者：湯浅壱道（九州国際大学）
三船 毅

D5 投票行動から見た2009年政権交代

司会者：平野 浩（学習院大学）
報告者：小林良彰（慶應義塾大学）
「2009年政権交代における民意の
反映」
池田謙一（東京大学）
「制度信頼、ネットワーク、2009年

の政権交代」

山田真裕（関西学院大学）

「スウィング・ヴォーティング、政治的能力、経済投票」

討論者：前田幸男（東京大学）

想を手がかりに一」

討論者：小林正弥（千葉大学）

河島幸夫（西南学院大学）

小南浩一（北陸大学）

D6 国際開発の多元性：グローバルとローカルの交錯

司会者：元田結花（学習院大学）

報告者：小川裕子（早稲田大学）

「グローバル・ガバナンスにおける国内制度—DACと各国開発援助機関に期待された役割—（仮）」

榎本珠良（東京大学大学院）

「『平和構築』における『伝統』—北部ウガンダ・アチョリ地域の事例から—」

討論者：中野佳裕（立命館大学）

D7 ポスト世俗社会における宗教と政治

司会者：小田川大典（岡山大学）

報告者：木部尚志（国際基督教大学）

「信仰の論理と公共的理性の相克」

辻 康夫（北海道大学）

「市民社会における宗教の位置づけ」

討論者：千葉 眞（国際基督教大学）

D8 宗教と政治——— 宗教的エトスは政治にいかにかかわるか 新渡戸稲造・賀川豊彦・南原繁を事例に

司会者：小南浩一（北陸大学）

報告者：布川 弘（広島大学）

「満州事変前後の国際的平和運動と宗教 —新渡戸稲造と賀川豊彦、およびクリスチャン・インターナショナルを中心に—」

チェ・ソンホ（法政大学）

「南原繁の政治性に関わる宗教的理念 —終戦前後を中心に—」

船津明生（同朋大学）

「多元論的宗教思想と国際協調 —植民政策学と新渡戸稲造の思

10月11日（月）

10：00～12：00 〈分科会E1～E4〉

E1 公募企画 選挙（制度）研究

司会者：河野武司（慶応義塾大学）

報告者：大村華子（京都大学大学院）

「戦後日本における政策ムードの規定要因」

上神貴佳（高知大学）・上田路子（カリフォルニア工科大学・早稲田大学）

「選挙区規模と党派性：市町村合併を伴う地方議会選挙データによる検証」

孫 齊庸（東京大学大学院）

「政治資金問題をめぐる政党間競争と制度変化のメカニズム」

討論者：河野武司

E2 公募企画 戦争・紛争の政治学

司会者：押村 高（青山学院大学）

報告者：鎌原勇太

（日本学術振興会・慶応義塾大学大学院）

「民主主義と内戦—「アノクラシー仮説」に関する理論的整理とその批判的考察」

大村啓喬（大阪大学大学院）

「天然資源と第三者による内戦への介入（仮）」

北村 治（政治経済研究所）

「デモクラシーのための戦争と政治」

討論者：押村 高

E3 公募企画 環境の政治学

司会者：丸山正次（山梨学院大学）

報告者：木原滋哉（呉工業高等専門学校）

「環境公共圏の政治学：『公害の政治学』から40年」

野村 康（名古屋大学）

学 会 ニ ュ ー ス

「環境政治とデモクラシー：途上国
における課題」

安全保障関係の文脈で」
討論者：御厨 貴（東京大学）

E4 自民党とは何であったか（研究交流委員 会・戦前戦後・比較政治史研究フォーラム）

司会者：河野康子（法政大学）

報告者：逢坂 巖（立教大学）

「メディアと（しての）自民党」

小宮 京（東京大学）

「政党としての自民党」

吉田真吾（日本学術振興会）

「自民党政権とアメリカ——日米

13：00～15：00 〈公開講演会（中京大学と共 催）〉 福祉社会をどうつくるか（仮）

司会者：新川敏光（京都大学）

報告者：宮本太郎（北海道大学）

「ヨーロッパの状況から」

田邊国昭（東京大学）

「日本の状況から」

討論者：西山隆行（甲南大学）

「アメリカの状況から」

研究大会報告論文の公開・入手方式について

日本政治学会事務局

2008年度研究大会より、報告論文をウェブページ上に公開したうえで、ダウンロードにより会員が各自でご入手いただく方式を採用し、これにともない研究大会期間中の報告論文の販売は行なわないことといたしました。これは、従来、販売・頒布用の報告論文の印刷をお願いしておりました報告者の方々の負担軽減などを目的とした措置です。本年度も一昨年度および昨年度と同様の方式を採用させていただきたく存じます。

なお、ウェブページを経由した報告論文への

アクセスは会員の方々に限定させていただきます。準備が整い次第、会員の皆様には閲覧・ダウンロードのためのパスワードをお知らせいたします。また、報告論文の閲覧・ダウンロード期間は、研究大会期間をはさんでその前後約2週間ずつを予定しております。

以上、一昨年度および昨年度と同様、今年度も皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年度日本政治学会総会・研究大会期間中の宿泊施設について

日本政治学会事務局

会員の皆様には、すでに2010年度会費の納入をお願いした際、あるいは入会承認書を差し上げた際にお知らせしておりますが、2010年度の日本政治学会総会・研究大会の開催期間中は、三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで2010 FIA F1世界選手権シリーズ日本グランプリレースの開催が予定され、さらに愛知県名古屋市内でも生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に先だってカルタヘナ議定書第5回締約国会合（COP/MOP5）が開催されるほか、他の学会の研究大会の開催も予定されているため、名古屋市内の宿泊施設の確保が困難な状況が予想されております。

そこで、2010年5月10日より、学会ウェブペー

ジ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2/>）にて、会員の皆様向けに確保した宿泊施設をご紹介しますが、部屋数には限りがあるため、すべての方のご要望には沿いかねるものと思われま

す。今後、宿泊施設を一括確保している旅行代理店が、どの時期に、またどの程度の数の空室を、F1日本グランプリレース観戦者あるいは生物多様性条約締約国会議関係者以外の宿泊者向けに提供することになるのか、現時点では見通しが立ちませんが、会員の皆様には、名古屋市内および近隣の諸都市の宿泊施設の空室情報をこまめにご確認のうえ、空室を見つげられた場合には早めにご予約いただきますよう、お願い申し上げます。

『年報政治学』独立論文公募のお知らせ

査読委員会委員長 小川 有美

『年報政治学』では論文を公募しています。公募論文は、「特集」テーマに関連した「特集論文」と、特定のテーマにとらわれない「独立論文」の2種類に区分されます。「独立論文」は、特定の締切り期日を設けず受け付けています。ただし編集の都合上、2011年度第I号（2011年6月刊行予定）に掲載を希望される会員は、2010年10月31日までに下記の送付先に原稿をご提出ください。公

募論文には査読による審査が行われます。審査を公正かつ迅速に行うため、正副委員長のほか5名の委員からなる査読委員会が設けられています。査読委員会は、会員の中から査読者を選び、査読結果にもとづいて掲載論文を決定いたします。論文の投稿に関してくわしくは、日本政治学会ホームページに掲載されている「論文投稿規程」および「査読委員会規程」をご覧ください。

*** 原稿送付先：**

〒171-8501

東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学法学部 小川有美研究室内日本政治学会査読委員会
投稿用メールアドレス nennpou@mbn.nifty.com

*** 投稿規程**

独立論文・特集論文ともに学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/jpsa2/publication/nennpou/index.html>）に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて上記へ送付して下さい。投稿規程により、未発表でない論文、論文の分量（注、参考文献、図表を含め原則20,000字以内）を超過している論文、また応募時点の年度の会費を納入済みでない会員の論文は受理できませんので、投稿前に必ず規程をご確認ください。

『年報政治学』2011年度第Ⅰ号特集論文公募のお知らせ

2011年度第Ⅰ号年報委員長 **越智 敏夫**
査読委員会委員長 **小川 有美**

2011年度第Ⅰ号（2011年6月刊行予定）のテーマを「政治における忠誠と倫理の理念化（仮題）」といたしました。道徳的規範にかかわる忠誠や倫理といった「人間的要因」が政治的思惟において理念化されてきた態様について検討する予定です。それらを中心に、合理的な人間類型を逸脱する行動がもつ政治的帰結について広く論じたいと思います。したがってこの主題を伝統的に扱ってきた政治理論、政治思想史のみならず、国際政治の方法論や比較政治、地域研究における実証的ア

プローチも検討の対象となります。

そこで、本テーマに関する研究論文の投稿を広く日本政治学会会員から募ります。多くのみなさんからのすぐれた論考を期待します。

原稿の締切は2010年10月31日とします。投稿原稿は学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/jpsa2/>）に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

『年報政治学』2011年度第Ⅱ号特集論文公募のお知らせ

2011年度第Ⅱ号年報委員長 **品田 裕**
査読委員会委員長 **小川 有美**

2011年度第Ⅱ号（2011年12月刊行予定）のテーマを、「政権交代期における選挙区政治の変容（仮題）」といたしました。近年の制度改革、利益構造や有権者意識の変容、あるいは急速な高齢化や地方の疲弊等の社会変化は、政治と社会の関わり方に大きな影響を与えていると考えられます。そこで本年報は、政治と社会のインターフェースといえる選挙区レベルの政治に注目し、政治家と有権者の関係について、行政・地方議員・団体等との関わりや制度の影響も含め、議論することを目的とします。分析に際しては、政治過程論や選挙

研究のみならず、比較政治学・政治史・政治理論など多様なアプローチが望まれます。そこで、このテーマに関連する研究論文の投稿を広く日本政治学会会員から募りたいと思います。多くのみなさんからのすぐれた論考を期待します。

原稿の締切は2011年3月31日とします。投稿原稿は学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/jpsa2/>）に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

2009年度日本政治学会第4回理事会議事録

日時：2009年12月12日（土）15時00分～16時35分
場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 80年館7階会議室

第4回理事会においては、以下の事項が報告・協議された。

1. オブザーバーの出席について

山口理事長より、田中愛治IPSA執行委員、中野勝郎次期常務理事、白鳥浩次期幹事、細井保次期幹事のオブザーバーとしての出席をお認めしたいとの提案があり、これを承認した。

2. 各種委員会報告

① 年報2010-I 編集委員会

西川理事（中郵委員長代理）より、2009年12月12日に第3回目の研究会を開催し、特集論文のタイトルと掲載順を決定するとともに、締切厳守の方針を確認したことが報告された。

② 年報2011-I 編集委員会

越智委員長より、出岡直也氏（慶應義塾大学）をあらたに編集委員に選出したことが報告された。

③ 年報2011-II 編集委員会

品田委員長より、来年度の科学研究費補助金交付申請のメンバーを中心に編集委員会を構成する方針であるが、正式な委員選出の報告は今回の理事会において行う予定であることが報告された。

④ 査読委員会

小川委員長（空井常務理事代読）より、(i) 年報2010-I 公募論文（10月末日締切）として受理した18本の論文につき現在査読を行っていること、(ii) 会員より、共同調査者チームで作成した社会調査データを利用した論文を共同調査者全員の共著論文として投稿することの可否につき問い合わせがあり、当該会員以外の共同調査者は非会員のために規程上共著者と記載できない旨回答したところ、自然科学・医学系や実験心理学系ではファースト・オーサー

以外の共同研究者を共著者として記するのが通例であり、かかる措置が認められない以上投稿は断念するとの返答があったこと、またこの問題については、過去『年報政治学』において共著論文の例はさほど多くなく、その場合も実質的著者として取り扱ってきたと認識しているものの、近年の共同調査研究の増加に鑑み、共著者の定義やその記載方法につき委員会でも今後検討してゆく方針であること、(iii) 年報2009-IIの独立投稿論文執筆者のうち1名が初校段階で多数の訂正を行ったため、副委員長と協議し、常務理事および木鐸社とも意見を交換しながら対応を検討したが、当該執筆者によれば既存研究のサーヴェイを最新のものとするのに伴い、註をはじめとして修正箇所が予想以上の多数にのぼったとのことであったため、委員会としては望ましくない事態とはいえ今回の修正は了承することとともに、『年報政治学』論文投稿規程』14条に従い、追加製作費用の負担につき当該執筆者の了解を得たことが報告された。

⑤ 2010年書評委員会（2010-I号掲載分）

羽場委員長より、現在10名の委員により、2～3年前の刊行・発表分にまで遡って書評対象文献の精査・検討を行っていることが報告された。

⑥ 2010年度企画委員会

杉田委員長より、(i) 日程は今年度のそれを基本的に踏襲し、土曜日午後から月曜日午前までを各種分科会に充て、月曜日午後を公開シンポジウムに充てる方針であること、(ii) 企画委員会企画として13の分科会設置を予定し、それぞれにつき構成を固めつつあること、(iii) 共通論題と公開シンポジウムについては現在企画を検討中であること、(iv) 公募企画については現在ウェブ・ページを通じて募集中であることが報告された（配付資料参照）。

⑦ 国際交流委員会

信夫委員長より、(i) 日欧交流小委員会関連として、2009年度研究大会に招聘したカール・レヴィ氏の日本政治学会研究大会における

活動に関する記事がイギリス政治学会のニューズ・レターに掲載されたこと、(ii) 日韓交流小委員会関連として、12月3日～5日に開催された韓国政治学会年次大会に日本政治学会から小林良彰会員・平野浩会員が派遣され、日韓交流セッションに登壇したこと、またこれとは別に韓国政治学会が国際交流基金から援助を得て山口理事長・小野耕二会員・中西寛会員を招聘し、「政権交代以後の日本の政治」とのタイトルで分科会を開催したことが報告された。

3. IPSAについて

田中IPSA執行委員より、(i) 2009年IPSA世界大会でのIPSA執行委員選挙に無事当選したこと、(ii) 「高坂正堯賞」および「グローバル・サウス賞」が、サントリー財団とIPSAとの間で賞の性格をめぐる意見対立が生じたために創設に至らなかったものの、その後レオナルド・モルリーノ新会長より、研究助成の新設についてあらかじめサントリー財団と交渉して欲しいとの依頼があったことが報告された。

4. 2009年度総会・研究大会について

信夫開催校担当理事より2009年度総会・研究大会についての会計報告が行われ、これを承認した。また山口理事長より、学会からの補助による収入1,000,000円（研究会準備金600,000円、大会開催校補助100,000円、国際シンポジウム開催費300,000円）と支出1,002,236円（懇親会費および事前・事後打合せ費を除く）の差額（支出超過分）2,236円は開催校に負担いただくこととしたいとの提案があり、これを承認した（配付資料参照）。

5. 英文雑誌編集委員会の設置について

山口理事長より、2009年12月4日に漢陽大学（韓国）で行われた日韓協議（日本政治学会から山口理事長・小野理事、韓国政治学会から李南永会長・金在鎬対外協力理事が出席）の内容につき、小野理事作成のメモをもとに詳細な説明が行われ、(i) 今後2011年3月創刊を目指して両学会が共同で作業を進めること、(ii) 共同の編集委員会（日韓各2名、および英米圏から日韓各1名の推薦による2名、計6名で構成）を設置する

とともに、その下に編集実務を担当する委員会を両学会に設置し、渉外担当者を通じて協議を行ってゆくことの2点に関し、基本的な合意に達したことが報告された。ついで山口理事長より、国際交流基金の現在の運用状況につき説明がなされ、同基金を解消する方針をあらためて確認したのち、今後の対応方針が諮られたが、日本側が主張する5年後の刊行態勢見直し方針のさらなる明確化、3月刊行に伴って生じやすい年表記の混乱の回避、英文チェック態勢と所要経費の検討などの必要性が指摘され、かかる意見を踏まえつつ山口理事長と小野理事を中心にさらに検討を加えたのち、次回以後の理事会においてより詳細な方針を提案することとした。また山口理事長より、(i) 日本政治学会側の編集実務担当委員会として「英文雑誌編集委員会」（仮称）を設置すること、(ii) 同委員会には、2009年度第3回理事会（2009年10月12日開催）で設置を了承した「日韓共同雑誌創刊準備小委員会」をそのまま充てることが提案され、これが了承された（配付資料参照）。

6. IPSA執行委員渡航補助のあり方について

山口理事長より、現在エコノミー航空券代金の実費を補助しているIPSA執行委員渡航補助（国際交流基金事業費）につき、田中IPSA執行委員から滞在費補助の要請があったのを受けて事務局で検討した結果、IPSAによる滞在費補助がない場合に限り、日本政治学会から滞在費として15,000円×泊数分の金額を補助することとし、2009年IPSA世界大会への執行委員候補者の渡航からこの方針を適用したいとの提案がなされ、審議ののちこれを承認した。

7. 『年報政治学』掲載論文執筆者の職位表記について

空井常務理事より、大串年報2009-II編集委員長の指摘を受けて『年報政治学』掲載論文執筆者の職位表記のあり方について調査した結果、職位を「教員」とのみ記載する現在の運用状況が、「所属大学・職位・専門を当該論文の冒頭の脚注に記載する」との2006年度第5回理事会（2006年12月2日開催）決定と齟齬をきたしていることが報告され、種々審議ののち、特に昨今の職位の多様

化に鑑み、以後、『年報政治学』の掲載論文については、その冒頭の脚注に「所属機関 職位 専門分野」の順で執筆者情報を記載する（ただし職位欄には「教員」との記載も認める）こととした（配付資料参照）。

8. 入退会承認について

以下、8名の各氏を新入会員として承認した（事務局受付順、敬称略）。

一般会員（5名）

稲吉晃、金光旭、田中優、境家史郎、野村康

学生会員（3名）

濱野靖一郎、東村紀子、乙部延剛

前回理事会時の会員数1,754名、この間の退会者は2名（うち申し出による退会1名、逝去による退会1名）であり、今回の入会承認者8名を加えた結果、現在会員数は1,760名となった。

9. 次回理事会の開催について

山口理事長より、次回の2009年度第5回理事会は2010年3月13日（土）の13時より、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W301号室において開催することが提案され、これが了承された。

10. 事務局報告

空井常務理事より、(i) 年報2009-IIと会報58号が納品済みであり、近日中に各会員に届けられること、(ii) 『年報政治学』の電子アーカイヴ化について、データに若干のエラーが発見され、その修正を行っていたが、今月中には登載・公開が可能となる見通しであるとの報告が独立行政法人科学技術振興機構（JST）から寄せられたこと、(iii) 規約や規程の見直しについて、引き続き事務局で慎重に検討を進めてゆく方針であることが報告された。

2009年度日本政治学会第5回理事会議事録

日時：2010年3月13日（土）13時00分～15時05分
場所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟
W301号室

第5回理事会においては、以下の事項が報告・協議された。

1. 各種委員会報告

① 年報2010-I 編集委員会

中邨委員長より、(i) 特集「政治行政への信頼と不信」は依頼論文6本と特集に組み込んだ投稿論文1本の計7本で構成され、いずれの論文も入稿済みであること、(ii) 1論文平均約15,000字となり、特集に割り当てられている字数・頁数に無事収まる見通しであることが報告された（配付資料参照）。

② 年報2010-II 編集委員会

岩本委員長（空井常務理事代読）より、2010年3月2日～3日に名古屋市で研究会を開催し、そこでの充実した議論を踏まえ、8月初頭を目標に各委員が論文執筆にとりかかっている

ことが報告された。

③ 年報2011-II 編集委員会

品田委員長より、以下の各氏を委員に選出したことが報告された。今井亮佑（首都大学東京）、大西裕（神戸大学）、河村和徳（東北大学）、砂原庸介（大阪市立大学）、曾我謙悟（神戸大学）、高安健将（成蹊大学）、山田真裕（関西学院大学）。また品田委員長より、(i) 委員の人選は科学研究費補助金交付申請の共同研究者を中心に進めたために若干の偏りがあるが、実際の執筆者は、よりバランスのとれた布陣を整える予定であること、(ii) 2010年度研究大会で分科会を設置する予定であることが報告された。

④ 2010年文献委員会（2010-II号掲載分）

秋月委員長（空井常務理事代読）より、会員から申告された業績の分野別整理・分類は完了し、近日中にこれらの業績を委員に送付して執筆にとりかかってもらう予定であること、また以下の各氏を委員に選出したことが報告された。飯尾潤（政策研究大学院大学、政治学・政

治理論)、宗前清貞(琉球大学、日本政治・政治過程)、村上祐介(日本女子大学、行政学・地方自治)、瀧川修吾(日本大学、政治思想[日本・アジア])、山中優(皇學館大学、政治思想[欧米])、奈良岡聡智(京都大学、政治史[日本])、藤井篤(香川大学、政治史・比較政治[西欧・北欧])、水谷真里(大東文化大学、政治史・比較政治[北米])、高橋百合子(神戸大学、政治史・比較政治[中南米])、大中真(桜美林大学、政治史・比較政治[ロシア・東欧])、永井史男(大阪市立大学、政治史・比較政治[アジア])、三須拓也(札幌大学、政治史・比較政治[アフリカ])、古川浩司(中京大学、国際政治)(配付資料参照)。

⑤ 2010年書評委員会(2010-I号掲載分)

羽場委員長(空井常務理事代読)より、初校にむけて順調に作業を進めていることが報告された。

⑥ 2011年書評委員会(2011-I号掲載分)

西崎委員長より、以下の各氏を委員に選出したことが報告された。飯田文雄(神戸大学、政治理論)、金井利之(東京大学、行政学・地方自治)、井柳美紀(宮城教育大学、政治思想[欧米])、山田央子(青山学院大学、政治思想[日本・アジア])、井上寿一(学習院大学、政治史[日本・アジア])、岡山裕(慶應義塾大学、比較政治・政治史[欧州・北米])、仙石学(西南学院大学、比較政治・政治史[ロシア・東欧])、堀金由美(明治大学、比較政治・政治史[第三世界全般])、土佐弘之(神戸大学、国際関係論)(配付資料参照)。

⑦ 2010年度企画委員会

杉田委員長より、(i)企画委員会企画として11分科会、共通論題1件、公開講演会1件の構成がほぼ固まったこと、(ii)委員会での審議の結果、公募企画15分科会、公募セッション3分科会(8報告)、自由論題5分科会(15報告)、政治学のフロンティア(ポスターセッション)8件の設置を認めることとしたこと、(iii)分野別研究会関連で3分科会の設置申請がなされたこと、(iv)国際交流委員会企画分科会については現時点では未定であることが報告された(配付資料参照)。ついで桑原開催校担当

理事(山口理事長代読)より、(i)初日の10月9日は、午前中に研究大会会場となる中京大学名古屋キャンパスで入学試験が実施されるため、12時に受付を開始し、13時からの研究大会開催とすること、(ii)最終日の10月11日に行う公開シンポジウムは13時の開始とし、あわせて同シンポジウムを日本政治学会と中京大学総合政策学部の共同開催とすること、(iii)分科会については、10月9日が10教室(1展開)、10月10日が11教室(3展開)、通常通り授業が行われる10月11日は最大6教室(午前中1展開)(全体で49分科会)とすることが提案され、これを承認した。また桑原理事より、研究大会期間中には三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで2010 FIA F1世界選手権シリーズ日本グランプリレースの開催が予定され、さらに愛知県名古屋市内でも生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に先だってカルタヘナ議定書第5回締約国会合(COP/MOP5)が開催されるほか、他の学会の研究大会の開催も予定され、名古屋市内の宿泊施設の確保が極めて困難な状況が予想されることから、現在、JTB中部や中京大学生活協同組合等を通じて、一般会員向け、国際交流委員会関係者向け、理事会関係者向けのそれぞれにつき宿泊施設の確保に努めていることが報告されたのち、確保した宿泊施設の具体的な割当て方法の提案があり、これが了承された(配付資料参照)。

⑧ 研究交流委員会

河野委員長より、(i)2010年1月8日締切で分野別研究会の新規設置申請を募集したが、申請はなかったこと、(ii)2008年1月に設置が認可され、責任者が任期満了を迎えた2つの分野別研究会につき、いずれも責任者が重任となったこと、(iii)2010年2月1日締切で2010年度研究大会における分科会設置申請を募集し、応募のあった4件の申請を委員会で審議した結果、3分科会の設置を承認することとし、企画委員会にその旨を伝えたことが報告された。ついで河野委員長より、2010年度研究大会分科会設置申請のうち審査中の1件については、今後委員会で審議のうえ分科会設置が承認されれば、研究大会においても分科会の設置を

認めてもらいたいとの提案があり、これが了承された（配付資料参照）。

⑨ 英文雑誌編集委員会

小野委員長より、前回の2009年度第4回理事会ののち、韓国政治学会との交渉には大きな進展がないことが報告された。ついで山口理事長より、(i) ソウルへの委員長および委員の出張に関し、IPSA執行委員の例にならい15,000円×泊数分の宿泊費補助を学会から支給すること、(ii) 2009年度分の宿泊費補助は、2010年度の国際交流基金・英文雑誌編集委員会経費に予算計上したうえで遡及的に支給することが提案され、これを承認した。

2. 2009年度総会・研究大会について

信夫開催校担当理事より、前回の2009年度第4回理事会で行った会計報告につき、収入・支出のいずれの総額に関しても変更はないものの、支出の部の費目の額に一部誤りがあったため、それを訂正したいとの申し出があり、訂正を承認した（配付資料参照）。

3. ACNetとの個別業務委託契約の更新について

空井常務理事より、2010年度も引き続きACNetに学会業務を委託したいとの提案があり、これを承認のうえ、新たな個別業務委託契約書を取り交わすことが了承された（配付資料参照）。

4. 2009年度決算案及び2010年度予算案について

空井常務理事より、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2009年度決算案の説明が行われ、大串理事より、名簿作成積立金の名簿作成費が予算額を大きく上回る決算額となったことにつき質問がなされたのを受け、空井常務理事より補足説明が行われた。ついで大西監事と川人監事から監査報告が行われ、(i) 委員会経費からの「会食費」支出に関する厳格なルールの必要性が指摘されるとともに、(ii) 年報編集委員会が委員会経費で書籍を購入することの妥当性について疑念が示され、種々審議ののち、今回の2010年度第1回理事会で「日本政治学会委員会経費等取扱要領」（2007年度第5回理事会決定）を改正することを確認したうえで、2009年

度決算案を承認した。続いて空井常務理事より、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2010年度予算案の説明が行われ、審議ののち、それを承認した。なお審議においては、谷口理事より、2010年度からの団体会員会費の3,000\$USから4,200\$USへの増額措置が2009年IPSA世界大会（於サンティアゴ）において決定された際の経緯につき、IPSA執行委員から説明を受ける必要があるとの意見が出され、これが了承された。

5. 入退会承認について

以下、14名の各氏を新・再入会員として承認した（事務局受付順、敬称略）。

一般会員（6名）

佐藤史郎、正木寛也、大島明子、清水謙、畑野勇、谷口正弘

学生会員（8名）

佐久間健、蒔田純、真田尚剛、松尾晃孝、杉村豪一、大木直子、斉藤尚、横溝未歩

前回理事会時の会員数1,760名、この間の退会者は4名（うち申し出による退会1名、逝去による退会3名）であり、今回の入会承認者14名を加えた結果、現在会員数は1,770名となった。

6. 次回理事会の開催について

山口理事長より、次回の2010年度第1回理事会は2010年6月12日（土）の13時30分より、大阪市立大学文化交流センター研修室において開催することが提案され、これが了承された。

7. 事務局報告

空井常務理事より、(i) 会報58号（2009年12月15日発行）の題字部分で誤って「Jun. 2009」と記してしまったため、次号で会員に対してお詫びのうえ訂正すること、(ii) 『年報政治学』の電子アーカイヴ化につき、2009年12月21日に一般公開を開始し、目下、未掲載の岩波版3冊（1970年版・1974年版・1991年版）と、刊行から3年が経過した木鐸社版（2005年版・2006年版）に関して複製作業を行っていること、また木鐸社版については複製・公衆送信の可否を著作権者に電子メールで照会中であることが報告された。

学 会 ニ ュ ー ス

平成21年度決算（案）

平成21年度収支計算書（会計別）

平成21年3月1日から平成22年2月28日まで

（一般会計）

（単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
【経常収入の部】				
I 会費収入	11,138,000	12,158,920	1,020,920	
II 雑収入	3,000	72,571	69,571	
経常収入合計（A）	11,141,000	12,231,491	1,090,491	
【経常支出の部】				
I 事業費	7,090,000	6,925,462	△164,538	
1 研究会開催費	1,300,000	1,162,500	△137,500	
研究会準備金	600,000	600,000	0	
大会プログラム集作成費	650,000	562,500	△87,500	
報告者礼金	50,000	0	△50,000	
2 委員会経費	690,000	317,211	△372,789	
年報委員会	200,000	67,670	△132,330	
査読委員会	70,000	69,935	△65	
企画委員会	70,000	18,865	△51,135	
研究交流委員会	70,000	1,235	△68,765	
文献委員会	140,000	35,220	△104,780	
書評委員会	70,000	70,000	0	
選挙管理委員会	70,000	54,286	△15,714	
3 印刷費	4,600,000	5,019,735	419,735	
会報印刷費	300,000	352,065	52,065	
年報印刷費	4,300,000	4,667,670	367,670	
4 選挙管理費	500,000	426,016	△73,984	
II 管理費	3,064,000	3,019,624	△44,376	
1 理事会経費	40,000	14,327	△25,673	
2 事務局経費	240,000	77,241	△162,759	
運営費	50,000	0	△50,000	
人件費	40,000	34,000	△6,000	
経常費	100,000	43,241	△56,759	
慶弔費	50,000	0	△50,000	
事務局移転費	0	0	0	
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,700,000	2,844,056	144,056	
基本業務委託費	2,700,000	2,844,056	144,056	
法人格取得費	0	0	0	
4 前年度会計監査料	84,000	84,000	0	
経常支出合計（B）	10,154,000	9,945,086	△208,914	
経常収支差額（C）=（A）-（B）	987,000	2,286,405	1,299,405	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計（D）	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	200,000	200,000	0	
II 予備費	1,000,000	970,741	△29,259	
その他資金支出合計（E）	1,200,000	1,170,741	△29,259	
当期収支差額（F）=（C）+（D）-（E）	△213,000	1,115,664	1,328,664	
前期繰越収支差額（G）	10,162,837	10,162,837	0	
次期繰越収支差額（H）=（F）+（G）	9,949,837	11,278,501	1,328,664	

学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
【経常収入の部】				
I 本年度積立金	200,000	200,000	0	
II 受取利息	1,000	306	△ 694	
経常収入合計 (A)	201,000	200,306	△ 694	
【経常支出の部】				
I 事業費	600,000	1,064,857	464,857	
1 名簿作成費	600,000	1,064,857	464,857	
2 事前調査費	0	0	0	
経常支出合計 (B)	600,000	1,064,857	464,857	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 399,000	△ 864,551	△ 465,551	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
その他資金支出合計 (E)	0	0	0	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 399,000	△ 864,551	△ 465,551	
前期繰越収支差額 (G)	1,393,986	1,393,986	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	994,986	529,435	△ 465,551	

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
【経常収入の部】				
I 本年度積立金	0	0	0	
II 受取利息	0	0	0	
経常収入合計 (A)	0	0	0	
【経常支出の部】				
I 事業費	2,045,000	1,290,270	△ 754,730	
1 国際交流プログラム助成費	740,000	120,000	△ 620,000	
2 企画委員会国際交流セッション	35,000	0	△ 35,000	
3 国際交流委員会経費	70,000	6,530	△ 63,470	
4 IPSA分担金	300,000	298,570	△ 1,430	
5 IPSA執行委員渡航費補助	300,000	308,140	8,140	
6 大会開催校補助	100,000	100,000	0	
7 国際シンポジウム開催費	300,000	300,000	0	
8 英文雑誌刊行に関する小委員会経費	200,000	157,030	△ 42,970	
経常支出合計 (B)	2,045,000	1,290,270	△ 754,730	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 2,045,000	△ 1,290,270	754,730	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
I 予備費	1,000,000	3,885	△ 996,115	
その他資金支出合計 (E)	1,000,000	3,885	△ 996,115	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 3,045,000	△ 1,294,155	1,750,845	
前期繰越収支差額 (G)	17,185,837	17,185,837	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	14,140,837	15,891,682	1,750,845	

学 会 ニ ュ ー ス

平成21年度収支計算書（総括）

平成21年3月1日から平成22年2月28日まで

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
【経常収入の部】				
I 会費収入	12,158,920			12,158,920
II 雑収入	72,571	306		72,877
III 本年度積立金		200,000		200,000
経常収入合計 (A)	12,231,491	200,306	0	12,431,797
【経常支出の部】				
I 事業費	6,925,462	1,064,857	1,290,270	9,280,589
1 研究会開催費	1,162,500			1,162,500
研究会準備金	600,000			600,000
大会プログラム集作成費	562,500			562,500
報告者礼金	0			0
2 委員会経費	317,211			317,211
年報委員会	67,670			67,670
査読委員会	69,935			69,935
企画委員会	18,865			18,865
研究交流委員会	1,235			1,235
文献委員会	35,220			35,220
書評委員会	70,000			70,000
選挙管理委員会	54,286			54,286
3 印刷費	5,019,735			5,019,735
会報印刷費	352,065			352,065
年報印刷費	4,667,670			4,667,670
4 選挙管理費	426,016			426,016
5 名簿作成事業費		1,064,857		1,064,857
名簿作成費		1,064,857		1,064,857
事前調査費		0		0
6 国際交流基金事業費			1,290,270	1,290,270
国際交流プログラム助成費			120,000	120,000
企画委員会国際交流セッション			0	0
国際交流委員会経費			6,530	6,530
IPSA分担金			298,570	298,570
IPSA執行委員渡航費補助			308,140	308,140
大会開催校補助			100,000	100,000
国際シンポジウム開催費			300,000	300,000
英文雑誌刊行に関する小委員会経費			157,030	157,030
II 管理費	3,019,624			3,019,624
1 理事会経費	14,327			14,327
2 事務局経費	77,241			77,241
運営費	0			0
人件費	34,000			34,000
経常費	43,241			43,241
慶弔費	0			0
事務局移転費	0			0
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,844,056			2,844,056
基本業務委託費	2,844,056			2,844,056
法人格取得費	0			0
4 前年度会計監査料	84,000			84,000
経常支出合計 (B)	9,945,086	1,064,857	1,290,270	12,300,213
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	2,286,405	△ 864,551	△ 1,290,270	131,584
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	0
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	200,000			200,000
II 予備費	970,741		3,885	974,626
その他資金支出合計 (E)	1,170,741	0	3,885	1,174,626
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	1,115,664	△ 864,551	△ 1,294,155	△ 1,043,042
前期繰越収支差額 (G)	10,162,837	1,393,986	17,185,837	28,742,660
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	11,278,501	529,435	15,891,682	27,699,618

学 会 ニ ュ ー ス

貸借対照表総括表

平成22年 2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
【資産の部】				
流動資産				
現金預金	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118
現 金	0	0	0	0
振替貯金	9,251,729	0	0	9,251,729
普通預金	2,129,272	529,435	15,891,682	18,550,389
流動資産合計	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118
【負債の部】				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	102,500			102,500
流動負債合計	102,500	0	0	102,500
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	102,500	0	0	102,500
【正味財産の部】				
前期繰越正味財産	10,162,837	1,393,986	17,185,837	28,742,660
当期正味財産増加額(減少額)	1,115,664	△ 864,551	△ 1,294,155	△ 1,043,042
正味財産合計	11,278,501	529,435	15,891,682	27,699,618
負債・正味財産合計	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118

財 産 目 録

平成22年 2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
【資産の部】				
流動資産				
現金預金 手許有高	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118
振替貯金 ゆうちょ銀行019店	9,251,729			9,251,729
普通預金 ゆうちょ銀行908店	2,129,272			2,129,272
三菱東京UFJ銀行神保町支店		529,435		529,435
三菱東京UFJ銀行神保町支店			15,891,682	15,891,682
流動資産合計	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118
【負債の部】				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	102,500			102,500
流動負債合計	102,500	0	0	102,500
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	102,500	0	0	102,500
【正味財産の部】				
前期繰越正味財産	10,162,837	1,393,986	17,185,837	28,742,660
当期正味財産増加額(減少額)	1,115,664	△ 864,551	△ 1,294,155	△ 1,043,042
正味財産合計	11,278,501	529,435	15,891,682	27,699,618
負債・正味財産合計	11,381,001	529,435	15,891,682	27,802,118

学 会 ニ ュ ー ス

平成22年度予算（案）

(一般会計)

(単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 会費収入	11,020,000
II 雑収入	73,000
経常収入合計 (A)	11,093,000
【経常支出の部】	
I 事業費	6,520,000
1 研究会開催費	1,250,000
研究会準備金	600,000
大会プログラム集作成費	600,000
報告者礼金	50,000
2 委員会経費	620,000
年報委員会	200,000
査読委員会	70,000
企画委員会	70,000
研究交流委員会	70,000
文献委員会	140,000
書評委員会	70,000
選挙管理委員会	0
3 印刷費	4,650,000
会報印刷費	350,000
年報印刷費	4,300,000
4 選挙管理費	0
II 管理費	3,230,000
1 理事会経費	40,000
2 事務局経費	390,000
運営費	50,000
人件費	40,000
経常費	100,000
慶弔費	50,000
事務局移転費	150,000
3 CANPAN ACNet業務委託費	2,800,000
基本業務委託費	2,800,000
法人格取得費	0
経常支出合計 (B)	9,750,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	1,343,000
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 名簿作成積立金	200,000
II 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,200,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	143,000
前期繰越収支差額 (G)	11,278,501
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	11,421,501

学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	200,000
II 受取利息	500
経常収入合計 (A)	200,500
【経常支出の部】	
I 事業費	0
1 名簿作成費	0
2 事前調査費	0
経常支出合計 (B)	0
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	200,500
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
その他資金支出合計 (E)	0
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	200,500
前期繰越収支差額 (G)	529,435
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	729,935

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予算額
【経常収入の部】	
I 本年度積立金	0
II 受取利息	0
経常収入合計 (A)	0
【経常支出の部】	
I 事業費	5,045,000
1 国際交流プログラム助成費	840,000
2 企画委員会国際交流セッション	35,000
3 国際交流委員会経費	70,000
4 IPISA分担金	400,000
5 IPISA執行委員渡航費補助	400,000
6 大会開催校補助	100,000
7 国際シンポジウム開催費	300,000
8 英文雑誌編集委員会経費	400,000
9 英文雑誌作成費	2,500,000
経常支出合計 (B)	5,045,000
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 5,045,000
【その他資金収入の部】	
その他資金収入合計 (D)	0
【その他資金支出の部】	
I 予備費	1,000,000
その他資金支出合計 (E)	1,000,000
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 6,045,000
前期繰越収支差額 (G)	15,891,682
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	9,846,682

事務局より

会費納入についてのお願い

年会費をまだ納入されていない方が若干おられます。何とぞ速やかにご協力のほど、お願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。また、シニア会員（会費5,000円）および終身会員（一時金30,000円又は20,000円）の制度がございますので、ぜひご利用下さい。郵便振替により、以下の口座番号、加入者名あてに納入をお願いいたします。

口座番号：00120-2-500664

加入者名：日本政治学会

なお、2010年度末までに2010年度および2009年度の会費を納入されなかった会員の方は、「日本政治学会規約」第8条に基づき、自動的に退会扱いとなりますので、ご注意下さい。会費の納入状況につきましてご不明な点は、ACNetまでお問い合わせ下さい。

本号の目次

1. 日本政治学会2010年度研究会について 1
2. 2010年度研究大会プログラム 2
3. 研究大会報告論文の公開・入手方法について 10
4. 2010年度日本政治学会総会・研究大会期間中の宿泊施設について 10
5. 論文公募のお知らせ 11
6. 理事会議事録 13
7. 平成21年度決算（案） 18
8. 平成22年度予算（案） 22
9. 事務局より 24

訂正

2009年12月15日発行の『日本政治学会会報 No.58』の題字部分（1頁）に、「Jun. 2009」と記されておりましたが、「Dec. 2009」の誤りです。お詫び申し上げますとともに、ここに訂正させていただきます。

訃報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

- 堀 幸雄氏 日本政治史 1929年生。
成田 博之氏 横浜国立大学教育人間科学部准教授 政党論 ヨーロッパ政治史 1943年生。
高橋 進氏 東京大学大学院法学政治学研究所教授 国際政治史 比較政治 ドイツ政治 1949年生。

2010年6月15日発行

発行 日本政治学会事務局

空 井 護

〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西7丁目

北海道大学大学院法学研究科内

FAX：011-706-4948

E-mail：jpsa@juris.hokudai.ac.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2/>

特定非営利活動法人 CANPAN センター ACNet 事務局
日本政治学会担当（住所変更・会費）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16
海洋船舶ビル8階

TEL：03-5251-3967

FAX：03-3504-3909

E-mail：ac001-jpsa@canpan.org

印刷 よしみ工産(株)